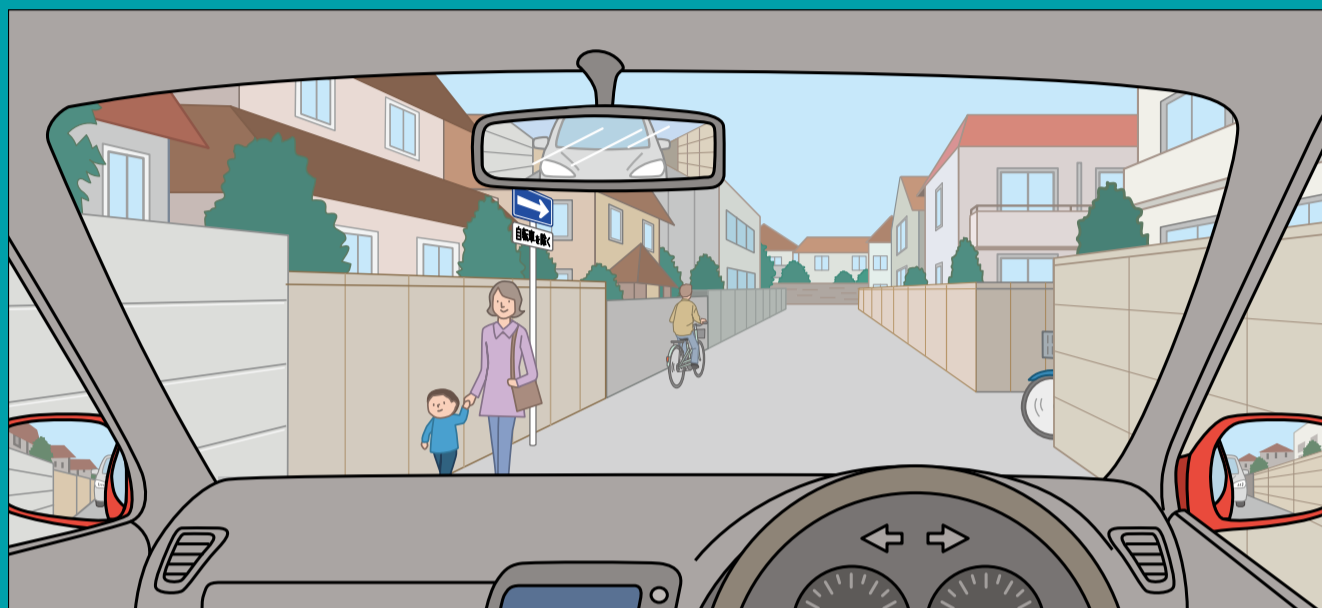


KYT 危険予測トレーニング

第 84 回 一方通行路を走行している時（四輪車編）

あなたは生活道路の一方通行路を直進しています。
右側には路地があります。
安全に走行するためには、どのようなことを予測する
必要がありますか？



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、一方通行路を走行している時の危険について考えてもらうための KYT です。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード（無料）できます。

【使用上の注意】

ホンダ SJ 検索

- 営利目的での利用はおやめください。
 - 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
 - その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。
- 本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL : 03(5412)1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

SJ クイズ ?

生活道路編

- Q1** 2020 年の交通死亡事故件数を車道幅員別にみると、幅員 5.5m 以上の道路の発生件数はゾーン 30※の推進が始まった 2011 年と比べ 40.0%減少しました。では、幅員 5.5m 未満の道路（生活道路）においては何%減少しているでしょう？
①約 33%減少 ②約 43%減少 ③約 53%減少
- Q2** 2021 年の交通事故死傷者数を車道幅員別・状態別にみると、幅員 5.5m 未満の道路において歩行中・自転車乗用中の死傷者が占める割合は、幅員 5.5m 以上の道路の何倍でしょう？
①約 1.2 倍 ②約 1.5 倍 ③約 1.8 倍
- Q3** 2020 年度までに整備されたゾーン 30 において、整備前年度の 1 年間と整備翌年度の 1 年間の交通事故を比較すると、何%減少しているでしょう？
①約 20% ②約 30% ③約 40%
- ※生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策。区域（ゾーン）を定めて 30km/h の速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内におけるクルマの走行速度の抑制を図る



「解答」は P7 下、「解説」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

Honda ハートプロジェクト第 4 弾

「安全技術」篇と「安全教育」篇の CM を公開中！

昨年 12 月より、Honda ハートの第 4 弾として「安全技術」篇と「安全教育」篇の CM を公開しています。

Honda は技術と教育の両面から「安心して自由に移動できる社会の実現」に向けて取り組んでおり、「2050 年に全世界で Honda の二輪・四輪が関与する交通事故死者ゼロの実現をめざす」ことを目標に掲げています。

「安全技術」篇では Honda が取り組み、進化を重ねてきた安全技術の歴史を、「安全教育」篇では 50 年以上にわたり人に焦点を当てた手渡しの安全アドバイスや教育プログラムの開発・普及を行い、全世界で 2500 万人以上が参加した活動を表現しています。

また Honda の YouTube チャンネルでは、開発や教育の現場に携わる従業員との対談を通じて、「安全」に対する想いや取り組みをさらに詳しく紹介する動画を順次公開していきます。ぜひ、皆様もご覧ください。



Honda

Honda ハート ウェブサイトで CM を視聴可能▲

SJ 編集部だより

～交通事故死者ゼロをめざして～

今号の「TRAFFIC SCOPE」では神奈川県横浜市に設定されたゾーン 30 プラスにスポットを当てた。道路管理者である横浜市が立ち上げた交通安全対策協議会は、工事着手までに 2 回開催されている。市の対策案に対して、地域住民から意見を吸い上げ、追加・見直しを行ったという。さらに、工事完了後は対策の効果を検証した結果を報告し、共有している。対策をより効果的なものにするためには自治体や警察、道路を利用する人々が一体となって進めることが必要だといえる。

実際に、ゾーン 30 プラスの区域内を走行している車両を観察すると、速度を控えるドライバー・ライダーが多かった。新たに整備された物理的デバイスや路面標示が、バイクやクルマの運転者に「歩行者や自転車の安全確保に努める」ことへの意識づけにつながっていると感じられた。ゾーン 30 は全国 4186 カ所（2021 年度末時点）に広がっているが、ゾーン 30 プラスの整備計画が策定済の地区は 33 カ所（2022 年 7 月末時点）に過ぎない。生活道路での交通事故防止のため、さらなる普及が望まれる。